

結果概要

1. 男女共同参画に関する意識等

(1) 男女の平等意識

- 「社会全体で」(71.5%)「社会通念・慣習で」(74.1%)「政治の場で」(75.2%)を始め、「学校教育の場で」を除く全ての分野で『男性優遇』との回答が多い。
- 「学校教育の場で」は5割以上が『平等』と感じている。
- 前回と比較すると、「政治の場で」は、『男性優遇』と回答した割合が6.7ポイント上昇している。

(2) 用語の周知度

- 「男女雇用機会均等法」「DV防止法」については、周知度は8割以上となっている。
- 「男女共同参画社会基本法」や「ワーク・ライフ・バランス」等、その他の項目の周知度は5割以下と、まだ低い状況がある。

(3) 「男は仕事、女は家庭」の考え方 (22P)

- 男女とも『反対』が『賛成』より多くなっているが、『どちらともいえない』が男女とも5割近くと最も多くなっている。

2. 家庭生活

(1) 結婚についての考え方

- 「女性も男性も結婚した方がよい」に『そう思う』と回答した人は7割を超えている一方、「結婚は個人の自由を束縛するものだから、一生結婚しない方がよい」に『そう思う』と回答した割合は1割未満で、結婚に対しては肯定的な人が多くなっている。
- 「結婚したら子どもを持つ方がよい」に『そう思う』と回答した割合は全体で7割を超えており、特に男性では8割近くが『そう思う』と回答している。
- 前回と比較すると、「結婚した以上離婚すべきではない」に『そう思う』と回答した割合は、7.9ポイント減少している。

(2) 非婚化について

- 非婚化の原因としてあげた人が多かったのは、「結婚の必要性を感じない人が増えたから」(62.7%)と「収入が不安定で結婚後の生活が不安だから」(62.5%)
- 「収入が不安定で結婚後の生活が不安だから」は、男性で理由としてあげた人が多く、特に30代男性は8割に上っている。

(3) 家事等の役割分担

- 家事・育児・介護は、依然として主に妻が担っており、理想として最も多く選択された『夫婦とも同じくらい行う』との乖離が大きい。
- 前回の調査と比べて若干低下しているものの、家事・育児・介護を妻が担っている割合は、あいかわらず高い。
- 夫婦とも勤務者の場合でも、分担の割合はほとんど変わっていない。

3. 教育・人権

(1) 教育

- 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」については、『そう思う』が6割を超え、『そう思わない』より多くなっている。
- 「性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要」については、9割以上が『そう思う』と回答している。
- 「小学校や中学校で、教師が児童・生徒の名前を呼ぶときは、性別で「くん」「さん」を使い分けられない方がよい」については、『そう思わない』が5割を超え『そう思う』より多くなっている。

(2) 人権が侵害されていると感じること

- 人権侵害としての認知割合が高い項目は、「性暴力」、「わいせつ行為」、「セクハラ」、「ストーカー行為」、「DV」で、いずれも7割を超えている。
- 前回よりも上昇が目立つのは「つきまといなどのストーカー行為」で、11.5ポイント上昇している。

4. 働き方

(1) 働き方、理想と現実

- 女性は、理想・現実共に『再就職型』と回答した割合が最も高く、男性は、理想・現実共に『就業継続型』と回答した割合が最も高い。

(2) 女性の起業に関する考え方

- 「女性の潜在労働力を活かすことができ、雇用の拡大や社会の活力に資する」に『そう思う』と回答した割合は男女とも6割以上で、特に男性で高くなっている。
- 「男性に比べて女性は起業をしにくい環境がある」に『そう思う』と回答した割合は男女とも5割以上で、特に女性で高くなっている。

(3) 有給休暇・育児休業・介護休業の取りやすさ

- 3項目ともに、男性職員よりも女性職員の方が『取りやすい』と感じている。
- 男性職員の「育児休業」「介護休業」については、『取りにくい』が約5割となっており、『取りやすい』を大きく上回っている。

(4) 働いていない理由

- 現在働いていない人にその理由を聞いたところ、30代女性では、「子育てとの両立が困難だから」とする人が6割を超えている。

5. 仕事と家庭生活の両立

(1) 仕事と家庭生活の両立のために必要な環境整備

- 男女とも、「地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」(女性45.9%、男性46.6%)をあげた割合が最も高かった。
- 男性では、「制度を利用しやすい職場環境を整備すること」(42%)、女性では「仕事と家庭の両立について家族など周囲の理解と協力があること」(42.1%)が2番目に高くなっている。
- 前回と比較すると、「育児・介護休業制度を取得できる期間を延ばすなど、制度を充実させること」をあげた割合は、男女ともに低くなっている。

(2) 男性が家事・育児等に参加するために必要なこと

- 女性では、「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(68.8%)が最も多く、男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(60.6%)が最も多い。

6. 少子・高齢化

(1) 出生率が低下してきている原因

- 出生率が低下してきている原因としてあげられたのは、『結婚しない人が増えた』(女性65.8%、男性69.7%)で、男女ともに最も多い。
- 女性では『女性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組みが整っていない』(55.9%)、男性では、『子育てに経費がかかりすぎる』(57.1%)が多くなっている。

(2) 介護が必要となった時の対応

- 男女とも『介護サービス付きの施設(老人ホーム等)に入居する』を選択した人が最も多い。

7. 社会活動などへの参画

(1) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)についての考え方

- ポジティブ・アクションに、『賛成』は 61.9%、『反対』は 12.3%と、『賛成』が多くなっている。
- 男性は『賛成』と回答した割合が女性よりも若干高いが、『反対』と回答した割合も女性より 10.7 ポイント高く、女性は『わからない』が多くなっている。

(2) 政策・方針決定にかかわる役職・公職への女性の進出についての考え方

- 役職、公職への女性の進出について『賛成』と回答した割合は、男女とも 8 割を超えている。